

1 はじめに

吉野川市の西部に位置する本校は、北は吉野川、南にはたなぼ山・高越山にはさまれた自然豊かな環境にある学校である。校舎内外には季節ごとにたくさんの花々が咲き、豊かな自然の中で、子供達の感性は育まれてきている。幼稚園と併設され、小学生38名、園児5名と一緒に学校生活を送っているため、自然と他学年交流ができる環境にある。また本年度で閉校することが決まっている。本学級の児童は6名で、幼稚園から共に成長し、いいところをお互いに言い合うことができる。図画工作科が好きで、毎時間の活動を楽しみにしており、何事にも興味をもって取り組むことができる。5月の造形遊び『新聞紙となかよし』では、新聞紙を細かくちぎって「花びらが落ちてきたよ！」と上から落としてみるなど、想像力を十分に働かせ、体全体を使って材料とかかわる姿が見られるようになってきた。そこで、更に発想豊かに体全体の感覚を働かせながら活動し、自らつくりだす喜びを味わうことができるよう、材料や場とのかかわり、人とのつながりを意識した実践に取り組んだ。

2 指導の実際

(1) 題材1 光はともだち 〈A表現(1)造形遊び・B鑑賞〉

本題材は、色セロファンを太陽に透かしさまざまな形に映し出す造形活動である。思い思いの形に切り抜いた画用紙に色セロファンを貼り、屋外に出て日の光にかざす活動を行い、形や色の面白さを楽しんだ。

- ①目標 ア 光を通して形や色をつくりだすことを楽しむことができる。
イ 映し出される形や色を変えるために、光の当て方をいろいろと試しながら、考えることができる。
ウ 試した中から思い付いた形や色を表すために材料の使い方を工夫して表すことができる。
エ 映し出された形や色の変化に気付き、面白さを感じるすることができる。

②指導計画

第1次 思い思いの形に切り抜いた画用紙に色セロファンを貼り、屋外に出て日の光にかざす。
・・・1時間

(2) 題材2 いろいろな光パワーをもらって 〈A表現(1)造形遊び・B鑑賞〉

本題材は、光を通してつくり出す形や色の面白さや美しさを味わう造形活動である。取り扱う材料は、身の回りにある光源や普段何気なく使っているプラ容器などの身近な材料を使用した。「光を通すもの」をそれぞれ持ち寄り、暗くした部屋に照明器具を用意した中で、光に透かす活動を楽しませた。

- ①目標 ア いろいろな材料に光を通して形や色をつくりだすことを楽しむことができる。
イ 映し出される形や色を変えるために、光の当て方をいろいろと試しながら、考えることができる。
ウ 試した中から思い付いた形や色を表すために材料の使い方を工夫して表すことができる。
エ 映し出された形や色の変化に気付き、面白さを感じるすることができる。

②指導計画

第1次 暗くした部屋に照明器具を用意した中で、光を通して様々な材料を映す活動に興味をもつ。
・・・1時間

第2次 照明器具の光に、様々な材料を試しながら、自分の気に入った形や色を映し出す活動を楽しむ。
・・・1時間

3 結果と考察

研究主題を考える上で、授業づくりの3つの柱を考察し、実践を行った。

(1) 感性を働かせ、表したいことへの思いや考えをもたせるための授業づくり

造形遊びでは、児童が材料や場とかかわりながら自分の思いや考えをもつ発想・構想の段階が重要となってくる。そこで、色セロファンや空き容器に光を当てながら、自分にとっての「ステキさがし」をしてタブレットで撮影することにした。光を通してみる色セロファンの重なりや空き容器の形を角度や撮る範囲を子供たち自身が決めて撮影することで、より思いや考えの集約を図ることができるのではないかと考えた。自分のおすすめのステキを探しながら、材料とかかわり、自分の思いや考えをもつてつくりつくりかえながら活動する姿が見られた。

(2) 表したいことを支えるための授業づくり

題材(1)では児童の身近な光である太陽の自然光に色セロファンを透かし様々な場所に映し出す造形活動を楽しんだ。ここで児童は光の造形的な面白さに気が付いた。そこで、題材(2)では、思い付いた活動をその場で試みながら表していくことができるように、人工の光で一定の強さの光源を用意した。また、材料の多色セロファンや透過性のある空き容器は大きさ、形の様々なものを用意したことで、児童は思い付いた活動を次々に展開することができた。活動の場も児童が互いに自由にかかわることのできる雰囲気とし、お互いの様子を見合い、材料との新たなかかわりかたを見付けることができた。また、スクリーンや模造紙を張り巡らせた白い空間を設定することで、光に映し出された色や形の世界に浸りこんで表す姿が見られた。

(3) 自らつくりだす喜びをもたせるための授業づくり

つくりだす喜びをもたせるために、「他の人とのつながり」を意識して取り組んだ。鑑賞の時間では、活動中の映像を基に互いの見付けたステキを紹介し合う場をもった。同じ材料を使っている、ステキとを感じる部分や色が一人一人違い、互いの見方や感じ方を認め合う時間となった。更に児童の思いを受け、全校児童の前で発表する機会を設けた。全校朝会で行った『光のステキ☆発表』では、他学年や先生方から「きれい」「すてきだね」と声をかけてもらうことができた。少し照れて、うれしそうな子供たちの笑顔がひろがった。他の図画工作科の作品も廊下に飾ったり、地域の方から見える場所につくったりして、自分の表したものを多くの人に認めてもらえる機会をもった。他の人に認めてもらえる喜びが、自信につながり、更なる造形への意欲へと高めることができた。

今回は低学年の造形遊びということで、光をテーマに、材料や場の設定、活動中の児童の見取りに重点をおいて取り組んできた。特に、児童が主体的に取り組むために、思いや考えをしっかりともたせる手立てを講じたことはよかった。タブレットも今回は私が思いを聞いて撮影したが、自分たちで撮影できればより自分の思いの集約ができたと考える。見取ることが難しい造形遊びの活動で、撮影した映像をもとに鑑賞できたことで、子供たちの活動や思いや考えを見取り、子供たち同士で共有できたことは有効であり、今後も続けていきたい。

4 おわりに

今回の実践研究は川田西小学校が全校38名の小規模校であり、他学年や地元の方とのかかわりも多く、小さい頃からお互いのことをよく知っている学級6人だからこそできた実践である。子供たちは、多くの方に作品を見てもらい、認めてもらうことで、自分の表現に自信を持ち造形活動を楽しむことができた。今年度閉校となり4校が統合し、学級6人から28人となる。周りの環境も変わるが、これからも自分の表現に自信を持ち、友達のいいところを素直に表現できる子供たちでいてほしい。残り少ない日々の中ではあるが、「ともに学び ともにみがき ともに生きぬく チーム川田西」のスローガンを心に、お互いに高め合いながら私自身もともに成長していきたい。